

第 4 1 回総合科学技術会議議事録（案）

1 . 日時 平成 1 6 年 1 1 月 2 6 日（金） 1 7 時 4 5 分～ 1 7 時 5 8 分

2 . 場 所 総理官邸 4 階大会議室

3 . 出席者

| | | |
|----|--------|----------------------|
| 議長 | 小泉 純一郎 | 内閣総理大臣 |
| 議員 | 棚橋 泰文 | 科学技術政策担当大臣 |
| 同 | 麻生 太郎 | 総務大臣（代理 山本 公一 総務副大臣） |
| 同 | 谷垣 禎一 | 財務大臣 |
| 同 | 中山 成彬 | 文部科学大臣 |
| 同 | 中川 昭一 | 経済産業大臣 |
| 同 | 阿部 博之 | |
| 同 | 大山 昌伸 | |
| 同 | 薬師寺泰蔵 | |
| 同 | 岸本 忠三 | |
| 同 | 黒田 玲子 | |
| 同 | 吉野 浩行 | |
| 同 | 黒川 清 | |

（臨時）

| | | |
|----|-------|--------|
| 議員 | 島村 宜伸 | 農林水産大臣 |
| 同 | 北側 一雄 | 国土交通大臣 |

4 . 議事

（ 1 ）平成 1 7 年度科学技術関係予算編成に向けて

（ 2 ）科学技術振興調整費について

（配付資料）

資料 1 - 1 平成 1 7 年度科学技術関係予算の編成に向けて(意見)(案)

資料 1 - 2 科学技術連携施策群にかかる点検結果の概要等

資料 2 平成 1 6 年度科学技術振興調整費による緊急研究開発等の指定について

資料 3 科学技術振興調整費の平成 1 4 年度に開始したプログラムの中間評価について

資料 4 第 4 0 回総合科学技術会議議事録(案)

5 . 議事概要

【棚橋議員】

それでは、ただいまから第41回「総合科学技術会議」を開会いたします。

今回は、臨時議員として、農林水産大臣、国土交通大臣に御参加いただいております。本日の議題は2つございます。お手元の資料にございますとおり、議題1として「平成17年度科学技術関係予算編成に向けて」、議題2として「科学技術振興調整費について」を予定しております。

(1) 平成17年度科学技術関係予算編成に向けて

【棚橋議員】

それでは、議題1の「平成17年度科学技術関係予算編成に向けて」に入ります。

これまでの総合科学技術会議において、SABCの優先順位付け等の改善、連携施策群の創設・推進、競争的研究資金の改革と拡充を3つの柱として、科学技術関係の予算改革に向けた議論を進めてまいりました。

予算編成過程が最終段階を迎えるに当たって、これまで議論してまいりました予算改革の内容を整理するとともに、政府予算案作成において考慮すべき重点事項についてとりまとめを行いました。

阿部議員から御説明をお願いいたします。

【阿部議員】

資料1-1を御覧いただきたいと思います。

今、大臣からお話がありましたとおりでありますので、そこは省略させていただきます。早速ですが「1. 科学技術関係予算の改革と充実」であります。

平成17年度は、第2期基本計画の最終年度でございます。その成否を左右する重要な年というふうに位置づけられております。

すべての科学技術予算をチェックして、優先順位づけの改善、連携施策群の創設、推進、競争的研究資金の改革と拡充からなる科学技術関係予算の改革を進めているところでございます。

なお、独立行政法人、国立大学法人等におきましては、概算要求時点で運営

費交付金による科学技術関係業務や配分額が特定しにくいというような事情がございます。今後、例えば決算等、各種情報を活用して、科学技術関係予算の把握を一層的確に行う必要がございます。

2 ページを開けていただきたいと思います。2 . に重点事項が掲げられております。(1)でございますが「メリハリの効いた科学技術活動の推進」でございます。御案内のように、S A B C の優先順位づけに基づくメリハリの効いた予算を実現することでございます。

(2) は「連携施策群の積極的な推進」でございます。優先順位づけ等において、不必要な重複の排除、連携強化等の指摘を行いました。今月は連携施策群として効果的の推進を目指し、再度点検を実施いたしました。今後、優れたコーディネーターを確保するなど体制整備を行い、その識見を生かして、この施策の具体的な加除を含めた検討改善を図りつつ、積極的に推進することが必要でございます。

(3) は「競争的研究資金の改革・拡充」でございます。これは、既存のものについては、引き続き改革を推進し、重点的に配分すること。新たに競争的研究資金として要求されたものについては、必要な改革が着実に進められると認められるものを重点的に推進するなど、倍増計画に向けた重点的拡充が肝要でございます。また、独立行政法人へ運営費交付金や補助金の形で予算が措置され、それを配分する競争的研究資金というのがございますが、これにつきましては、独立行政法人であるがゆえに、直ちに予算上の制約が課せられることのないような配慮が必要でございます。

最後に(4) であります「独立行政法人、国立大学法人等の重要な活動に対する予算措置」でございます。法人の主要な科学技術活動については、見解等を取りまとめたところでございます。真に重要とされるものについては、積極的に実施できるよう、所要の運営費交付金を措置することが必要であります。一方、見直しが求められたものにつきましては、法人の特性に配慮しつつも、科学技術活動の見直しを行うなど、見解を踏まえた適切な取組が必要と考えております。

以上、平成 17 年度科学技術関係予算の編成に向けまして、本日、御出席の皆様のお意見を伺いながら、総合科学技術会議として決定の上、総理大臣及び関係大臣に意見具申をいたしたく御提案をさせていただいている次第でございます。以上でございます。

【棚橋議員】

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、御意見がございましたら、御自由に御発言いただければと思います。なお、恐縮でございますが、

各議員におかれましては、簡潔に御発言をいただければ幸いです。
それでは、御発言のある方は、挙手をお願い致します。財務大臣どうぞ。

【谷垣議員】

このペーパーにもお書きいただいていますように、メリハリづけを通じて質的向上ということが一番大事だと思っておりますので、本年度も、私ども予算をつくるに当たりましては、総合科学技術会議で優先順位づけ、いわゆるSABCをやっていたいただいたものを、総合科学技術会議とよく連携をとって重視してやっていきたいと思っております。

それから、重点事項に掲げられております競争的研究資金の改革・拡充という点でございますが、昔からよく言われておりますように、高名な研究者に資金が重複して、それが必ずしも有効に使われているかどうかかわからないというのが、なかなか是正が難しいというところがあるようでございますが、制度改革、取組が十分行われるように、引き続きその面での御徹底をお願いしたいと思っております。

それから、SABCの在り方については、私も過去に申し上げたことがございますが、前回、副大臣が申し上げさせていただいたと思っておりますが、予算をつくりに当たりまして、我々にも予算をつくるときに、有効なものとなるような御工夫を今後ともお願いしたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いたします。

【棚橋議員】

ありがとうございました。農林水産大臣。

【島村臨時議員】

今ほどお話がありましたように、優先順位づけの結果を反映したメリハリのある予算の実現、競争的研究資金の拡充等には努力をしたいと考えておりますので、総合科学技術会議におかれても、科学技術関係予算の確保に向け、引き続きイニシャティブをとっていただきたい。

【棚橋議員】

ありがとうございました。文部科学大臣。

【中山議員】

平成17年度は、第2期科学技術基本計画の最終年度でありますとともに、次期基本計画の方向性を定める極めて重要な年であります。基本計画に掲げる諸

目標の達成に向けて、科学技術関係施策への取組を充実、加速していくことが必要でありまして、政府を挙げて科学技術関係予算の充実に努めることが重要であると考えます。

また、独立行政法人、国立大学法人及び大学共同利用機関法人は、科学技術振興上、重要な役割を担っておりますので、それぞれの活動を積極的に実施できるよう、所要の運営費交付金を措置することが必要であります。なお、科学技術政策の推進に当たりましては、各法人制度の趣旨や在り方を踏まえ、それぞれの法人の自主性、自律性が尊重されるよう、十分な配慮を行っていくことが必要と考えます。

競争的研究資金につきましては、関係各省が重点的な拡充要求を行い、基本計画の倍増目標に向けて懸命に努力しているところであります。総合科学技術会議におきましても、新たに競争的研究資金として要求されているものも含め、政府全体の要求額がしっかり確保され、倍増目標達成に向けて大きく前進できますよう、一丸となって取り組むことが必要であると考えます。以上でございます。

【棚橋議員】

ありがとうございました。ほかに御発言はございませんか。国土交通大臣。

【北側臨時議員】

後ほどお話があるかと思いますが、今回の中越地震に関する緊急調査研究につきまして、御指定をいただくということについて、まず、感謝申し上げたいと思っております。

それと、地震だけではなくて、今年は大変な台風災害がございました。10個の台風が上陸し、それも雨量がかつてなかった大変な雨量になっておりまして、高潮、高波、また浸水等々、かつてないような状況になっております。

なぜ、このような状況になっているのか、一応いわゆる異常気象と言われていたものの実態、今後の変動に関する研究、災害の発生リスクの分析、予防対策の研究等々、豪雨関係でもさまざまな研究を是非お願いしたいというふうに思っているところでありまして、今後の課題ということで、是非お願いをしたいと思っているところでございます。

【棚橋議員】

ありがとうございました。他に御発言はございませんでしょうか。どうもありがとうございました。

それでは、資料1 - 1「平成17年度科学技術関係予算編成に向けて」を原案

どおり決定いたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

【棚橋議員】

ありがとうございました。それでは、原案のとおり決定し、総合科学技術会議から小泉総理及び関係大臣に対して意見具申をいたします。

平成 17 年度は、第 2 期科学技術基本計画の最終年度である重要な年でございます。総合科学技術会議として取り組んできた予算改革を実現し、メリハリの効いた政府予算案とする必要がございますので、財務大臣を始めとする関係大臣におかれましては、御協力をよろしくお願い申し上げます。

(2) 平成 17 年度科学技術関係予算編成に向けて

【棚橋議員】

次に、議題 2 に入ります。科学技術振興調整費について、2 件御報告いたします。

まず、新潟県中越地震に関する緊急調査研究について、私が有識者議員、文部科学大臣及び関係大臣の意見を聞いた上で、緊急に対応を必要とする事案として、資料 2 のとおり緊急研究開発等の指定を行いましたので、御報告いたします。

次に、平成 14 年度に開始したプログラムについては、有識者議員及び関係府省の意見を聞いて中間評価を行い、その結果、今後の方向にかかる見解を付した上で、継続と判断いたしました。本件につきましては、資料 3 のとおりまとめましたので、御報告いたします。

それでは、最後に小泉総理から御発言をいただきたいと思っております。

(報道関係者入室)

【小泉議長 (内閣総理大臣) 】

皆様ありがとうございます。いよいよ 12 月、予算編成が間近に迫っておりま

すので、今まで皆さん一生懸命やっていただいたS A B Cを活かし、メリハリを付けてしっかりとしたい予算ができるように、今後ともよろしく御協力、御指導をお願いしたいと思います。

(報道関係者退室)

【棚橋議員】

ありがとうございました。なお、既に御確認いただいております、前回の議事録については、本会議終了後、公表させていただきます。また、本日の配付資料につきましても、すべて公表することいたします。

以上をもちまして、本日の総合科学技術会議を終了いたします。